

第5回高知県消防広域化推進検討委員会（審議概要）

日 時：平成19年8月31日（金）13:30～17:00

場 所：高知県庁 正庁ホール

1. 開会

2. 議事

①消防広域化推進アドバイザーによる講演・・・宮城県大崎地域行政事務組合消防本部
工藤消防長

②広域化に関する全国の状況について・・・消防庁消防・救急課 小林係長

③講演・説明に関する質疑

《各委員の質疑・協議》

（浜口委員）

大崎地域において、市町村合併後の負担金の取扱いに変化はあったか。

→基本的な取扱いは変わらない。（従来どおり）（工藤消防長）

（笹岡委員）

消防庁は広域化で「メリットがある」と説明し、すごく良いことばかりのように聞こえるが、高知県ではそんなに良いことばかりではなく、生き残りをかけた状況である。本当に良いことばかりなのか違和感がある。

→小さい消防本部は、確かに指令台の共同整備などのメリットはないかもしれない（もともと指令台がないなど）。しかし、応援体制などは強化されるものと考えている。（小林係長）

（山中委員）

前回の消防庁の説明時に、デメリットの情報が集まれば出していただきたいとのお願いをしていたが、どうだろうか。

→今のところ特になんかというものが正直なところ。あえていえば、消防庁舎などを広域化の前に整備して損をしたといった類のもの（広域化であれば有利な起債が使えた。）（小林係長）

（岡崎委員）

大崎地域で、消防団との関わりはどのように変わった（進んだ）か。

→市町村合併があったところは、団が一つになったので細かい部分での違いは当然あったが、調整可能であった。

広域化の問題では、窓口が一つになったので、逆に意志疎通が効果的になった面がある。

総じていえば、とくに変化、問題はない。（工藤消防長）

（夕部委員）

大崎地域では、20年、30年後に小さい署所で、人員・車両ともに減少して救急のみになるような心配はないか。（高知県ではまさにそうなのだが・・・）

→その問題はどこであっても同じであろうと思う。この問題が浮上してくる時期

には消防だけの問題ではなくなるだろう。行政同士で何らかの形で補完しなければならないと思う。やはり大きな一つの行政母体のなかで、一緒に考えるべきだろう。消防だけで考えるとすれば、やはり費用対効果が優先されるのでは・・・
(工藤消防長)

(夕部委員)

広域化に関しての全国の状況は？

→すべての県で検討に入っている。高知県のように5回もやっているのは2・3県くらい。

④消防本部の現状について・・・中芸、幡多西部、土佐清水市消防長より説明

《中芸白石消防長》

(現状)

- ・消防職員は36名。人数はぎりぎりであり、これ以上減らさないよう各首長にはお願いしている。
- ・火災については、奥地の場合は消防団に頼っているのが実情
- ・救急は2台体制を敷いている。7月末までに重複要請は18件。最近が高知への搬送が増えており、この関係から重複も増えている。(3台目の要請には広報車で対応するようにしている。)
- ・救急は1日平均にすると1.8件
- ・消防団は消防長のもとに5団。241名体制

(現状での問題点)

- ・1番の問題点は救助工作車がないこと。
- ・消防庁舎も古く、耐震診断すら行われていない。財政が厳しいことがネック。
- ・救命士は12名を確保したい。現在11名。今後も退職が見込まれており、順次更新しなければならない。

(広域化への考え)

- ・デジタル化や指令台のことを考えると賛成。
- ・範囲は1つの方が効率的だと考える。
- ・個人的には、市町村合併が先ではないかと思う。→先行させた方がいい結果になるのでは。

(岡崎委員)

中芸はかなり遠いところもあり、道路事情も悪く、災害時には交通規制も多い。まず、道路の問題を解決しないと考えるが、この辺の事情も考え併せたとき、広域化について消防長はどうお考えか。

→道路整備は早急に望みたいが、それはそれとして、広域化に関しては、応援の手続きが必要なくなる(一元化された対応が可能)ことはメリットであると思うし、孤立集落へ別の本部から違うルートを通して到達できる可能性が出てくるなど、大きくなれば対応できる可能性が出てくると思う。

《幡多西部谷本消防長》

(現状)

- ・職員は構成各市町村採用で、幡多西部消防組合へ派遣するという形。当然異動はない。
- ・職員の充足率は「整備指針」に対し62.4%。
- ・全隊員に兼務をかけており、午前は事務に従事し、午後訓練を行う体制。
- ・救急は年々増加しているが、管轄外搬送はあまりない。ただ、幡多けんみん病院

から高知市への転院搬送があり、往復6時間もかかる。

- ・救急の重複には、車両は間に合っているが、人員が足りない。
- ・火災については、宿毛市は車両2台、7名で出動する（消防団は10台）。遠方では40分かかり、団で対応が終わっているということもある。
- ・消防団との関係は各署所で対応しており、スムーズに行っている。広域化したときには注意が必要（悪くならないように）

（現状での問題点）

- ・人員が不足しており、非番招集が多い。職員にはかなりの負担。
- ・同じく人員の関係から、隊員の兼務が多い。専門化が図れない実情がある。

（広域化への考え）

- ・幡多ブロックだけで広域化するのはメリットはあまりないと思う。できるだけ多い（広い）方がいいのでは。
- ・指令の一本化には不安もある。（地理不案内）

（安岡委員）

- ・署所間の異動はないとのことだが、構成市町村の負担金はどのようになっているのか。
 - 本部経費を按分負担。その他人件費や経費はそれぞれの市町村で負担している。（支出事務すら個別）
- ・大月14人・救急車2台、三原6人・救急車1台の体制で問題はないか。
 - 今のところ特に問題はない。（まかなえている）
 - 応援についても署所には話している。（火災はほとんどないが、救急は一定ある。）
- ・大月での搬送先は？
 - 大月病院があり、病状によっては医師同乗でけんみん病院へ搬送となる。特に問題はない。

（浜田委員）

- 負担金の話があったが、県内の組合がどうなっているか分かるか。
 - 事務局で把握している。今後出させてもらうが、様々な形がある。（事務局）

（根小田座長）

- 高知へ行くことがあるといていたが、そういったケースは多いのか？
 - 県の防災ヘリの点検時などにあり、今年は今のところ5、6件。

《土佐清水浜田消防長》

（現状）

- ・人員は35名。目標は37名。採用計画を立てている。
- ・現場要員は25名、最低配備人員8名であり、やや不足している感がある。
- ・救急は、幡多けんみんへの搬送が3割を超えており、かなり時間をとられる。重複要請もあり、職員の確保は重要な課題。（非番招集）
- ・高齢化の影響もあり、救急はこれからも増加傾向にあるのではと感じている。
- ・豪雨災害も多い土地柄
- ・火災対応は車両2台、7名での出動となる。

（現状での問題点）

- ・人員が不足しており、非番招集が多い。特に幡多けんみん病院への救急搬送は3時間ほどかかるため、重複要請も結構ある。特に2台ともけんみん病院へということになると、空白時間が非常に多い。

- ・同じく人員の関係から、隊員の兼務が多い。
- (広域化への考え)
- ・広域化は、その必要性は感じている。
 - ・救急の面などではメリットも見込めるのではないか。
 - ・広域化にあたっては、各地域の特殊性を考慮する必要がある。

⑤広域化の推進について意見交換・・・冒頭に岡林消防政策課長より第4回委員会のまとめ

(笹岡委員)

- ・私は広域化は必要だと思うが、懸念される面がたくさんある。こうした懸念を解消しながら広域化の是非や範囲を考えたい。

(夕部委員)

- ・消防長会で議論したメリット・デメリットを検討する場を是非設けて欲しい。
→検討する。

(中村委員)

- ・メリットやデメリットはよく検討しておく必要はあろうと思う。ただ、その議論はそれとして、基本認識として広域化に取り組むのか、取り組まないのかは固めておく必要があると思う。その後でメリット・デメリットに移らないと議論は進まないのでは。また、この検討委員会の性格から、メリット・デメリットをすべてこと細かくこの検討委員会で議論して結論を出すまでには至らないのではとも思う。

(夕部委員)

- ・私がメリット・デメリットを検討する場を設けてと言ったのは、この場に消防長の思いを出して聴いてもらいたいとの考えだけである。(すべてを議論して結論を出すという意味ではない)

(浜田委員)

- ・今の市町村は、実際に基準財政需要額より消防にお金をかけている。今後基準財政需要額が減ったからと言って消防費を減らすわけには行かない。私は本部機能を統一し、現場を充実していくためには、広域化以外にはないと考える。(効率化できる部分は効率化していく以外にない)

(浜口委員)

- ・私は前回の検討会で高知市の代弁をしなければならなかったため、個人の意見があまり言えなかったが、私は広域化は高知市抜きには語れないと考えている。今後は高知市にとってのメリットを考えていくことも必要ではないか。

(山中委員)

- ・高知市の立場では正直メリットはないなと感じている。強いて言うなら人員面ではひょっとしたらあるかもしれないが、その他の車両や施設面では全くないと思う。
- ・また、嶺北とという話になれば、サービスを統一しなければ(火災時の出動常備で7台)。これが無理というなら広域化の意味はない。
- ・南国市とならば、高知市の東部地域でメリットはあるかもしれない。

(笹岡委員)

- ・負担金の問題だが、高幡組合では本部経費以外はそれぞれの市町村で負担してい

る。これを統一するには困難が伴う。

(安岡委員)

・広域化については、東部の3本部の合併が進めばという話もあるが、仮にこの3つが一本になっても人口6万にすぎず、東西の距離は100kmにも及ぶ。とても30万というイメージは合わない。ただ、本部機能の統合というのはイメージできる。問題はいろいろあるだろうが、署所は地元で運営し、本部のみ統一して費用按分するという選択もあるのではないか。高知市の言う消防力の差は問題ではないと思う。(消防サービスに格差はあっても良い)

(岡崎委員)

・私は1県1消防を基本に考えるべきと思う。どうすればこれが達成できるかを考えたい。

(工藤消防長)

・広域化の議論は、財政の部分から進めるのか、住民の面から進めるのかを整理する必要があるが、いずれにしてもここにいらっしゃる首長さん方が真剣に消防のことを考えているのを聞いて心強く、うれしく感じた。こうした方々のいる場であるので、問題が整理できればきっとうまくいくと思う。